

「北極圏旅行記 2017 夏 (30)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

～8/1 マスグンスの貸別荘～

この日は貸別荘を予約しておいて。この貸別荘は定員6人で、何人で泊っても1棟700クローネ(約9000円)と安いので、きっとバンガローぐらいだろうと、あまり期待していなかった。しかし予想がはずれた!



これが、この日の宿泊先の貸別荘「ラップランド・スノーキャビン」。これを他の旅行者のシェアなしで貸し切りにしてもらえるらしい。管理人はいないが、あらかじめメールで、鍵の場所と暗証番号を教えてもらっていたので、簡単に中に入れた。



2階建てで、1階はダイニング、キッチン、バス・トイレ、居間がある。広い! 明るい! それに清潔である。今回の旅行の宿泊先としては、★★★★★がついた。ダイニングテーブルの窓際にあるのは、無線LANルーターで、無料でインターネットもできる。



これがキッチン。広くて使いやすい。冷蔵庫にはあらかじめ食材がたくさん入っていた。あとから気づいたのだが、この貸別荘は「朝食付き」の料金になっていて、冷蔵庫の中のものには自由に使えるらしい。有料のものは値札がついていた。合理的なシステムだ。



こちらがリビング・ルーム。暖炉がある! オーナーが薪割り名人で、庭に山のように薪があるのだ。リクライニングのロッキングチェアと、2台のソファベッドもあり、ここにも数人寝泊まりできる。



2階には、寝室が2つあって、それぞれ2人ずつ休める。私はさっそく、窓際にテーブルと椅子を移動し、「北極圏オフィス」を開業した。



窓からは、ノルボッテンの森が見える。実に気分が良い。残念だったのは、この日は雷雨になり、4時間も停電になってしまったことだ。



これは、1階にあるバス・トイレ。北欧のシャワールームは、大抵囲いがなく、シャワーカーテンだけのものが多い。床全体が水浸しになる、あまり馴染めないシステムだ。しかしこのキャビンのものは、シャワールームが独立していて、排水がもれ出すこともなく、大変使いやすかった。タオルやシーツも無料、シャンプーやリンス類もすべて備え付けてあり、何も持ってゆく必要がない。しかも、2階にもトイレがある。

北欧ではウォッシュレットを一回も見たことがない。フィンランドでは、トイレに謎のシャワーがついていることがあるが、使ったことがない。



ダイニングテーブルに、雑記帳があったので、読んでみた。さまざまな国の人が来て、一様に「すばらしいキャビンだ！」と絶賛している。私もそう思った。私は窓から見えた絵を残しておいた。



到着してしばらくすると、オーナーのおじさんと、その娘さんが来てくれた。人懐こく、明るい、実にスウェーデン人らしい方である。庭にある納屋の中を見せてくれるという。



ここはもともと、オーナーの祖父の家畜小屋だったそうだ。オーナー一族はこのあたり一帯に点在する農家で、畜産をやめたあと、宿泊業を始めたらしい。